

2024年 3月14日

報道機関 各位

福島大学 環境放射能研究所が『環境放射能学入門』を出版

長崎大学が代表を務める

「災害・被ばく医療科学分野の人材育成による知の交流拠点構築事業」の一環として

福島大学 環境放射能研究所（IER）は、長崎大学が代表を務める「災害・被ばく医療科学分野の人材育成による知の交流拠点構築事業」の一環として和田敏裕准教授、高田兵衛准教授、難波謙二教授（所長）を編者とする学術書『環境放射能学入門』を出版しました（制作:歴史春秋社）。

福島大学全学1年生向けの基盤教育科目「環境放射能学入門」を担当するIERの教員を中心に執筆された本書は、主に高校生以上の学生や一般市民を対象とした環境放射能に関する教科書・入門書の役割を想定しています。

11章5コラム255ページからなる本書は、IERが実施してきた原発事故後の研究についてまとめた環境放射能分野における学術書です。IERのこれまでの研究成果に基づいた内容を幅広く示しており、福島第一原発事故後の環境放射能動態に関する科学的知見の理解に資することが期待されます。

【本書出版の背景】

IERは、昨年度、福島第一原発事故後の10年間の研究成果をとりまとめた英文学術書『Behavior of Radionuclides in the Environment III Fukushima』をSpringer社から出版しました。これは、IERの活動や研究成果を、国内外の研究者等に伝える上で大きな役割を果たしています。

一方、東日本大震災から13年が経過し、震災当時の状況が過去になりつつあるなかで、現在の福島のみならずさまざまな課題にも原発事故の影響が多少なりとも関係します。このような課題に関心を持ち、あるいは取組む若い世代や一般市民の皆様に対して、広くかつ分かりやすく原発事故後の環境放射能動態に関して今までに得られた科学的知見や残された課題を伝えていくということもIERの重要な役割と認識しております。そこで、今回、IERの教員が2020年以降に担当してきた全学向けの基盤教育科目「環境放射能学入門」の講義内容をもとに、一部の内容と著者を補強し、主に福島県内外の学生や一般市民を対象とした環境放射能に関する入門書を出版いたしました。

なお、本書は、福島イノベーションコースト構想推進機構による「大学等の「復興知」を活用した人材育成基盤構築事業（「復興知」事業）」の重点的取組として採択された「災害・被ばく医療科学分野の人材育成による知の交流拠点構築事業」（代表：長崎大学）の一環として出版され、長崎大学 原爆後障害医療研究所教授でIERの副所長も務めている高村昇教授が「おわりに」（結び）を執筆しています。

【『環境放射能学入門』に関するお問い合わせ】

国立大学法人福島大学 環境放射能研究所 事務室

電話：024-504-2114 E-mail：ier@adb.fukushima-u.ac.jp

【「災害・被ばく医療科学分野の人材育成による知の交流拠点構築事業」に関するお問い合わせ】

国立大学法人長崎大学 原爆後障害医療研究所 教授 高村 昇

電話：095-819-7170 E-mail：takamura@nagasaki-u.ac.jp

参考

■本書の内容と構成

本書は、11章5コラム255ページからなります。全ページがカラー対応で、図や写真が多用されています。著者は、IERのメンバーを中心に24名に及び、福島原発事故に起因する環境放射能に関する研究成果が幅広く示されています。

- 第1章 はじめにそして若干の基礎的なことから
- 第2章 放射性物質の大気拡散と放出源情報推定
- 第3章 福島第一原発事故による放射性物質の初期沈着と空からの放射線モニタリング
- 第4章 森林放射生態学：森林生態系における放射性核種の動態
- 第5章 陸域における水の動きに関連したセシウム137の動き
- 第6章 土壌の放射性セシウムと作物への移行
- 第7章 水産物の放射能汚染と福島県の漁業復興
- 第8章 海洋環境での放射性核種
- 第9章 森林の放射生態学 放射線の植物への影響
- 第10章 野生動物への放射線影響
- 第11章 福島とチェルノブイリの比較
- コラム1 原発事故の影響を受けた地域における森林火災は何をもたらすのか？
- コラム2 福島第一原発事故由来の不溶性微粒子の環境動態・影響
- コラム3 水生昆虫：森林から溪流への物質移動に関わるものたちと放射性セシウム
- コラム4 福島県の水産物の安全性と処理水：BqとSvから考える
- コラム5 野生動物の線量測定入門：外部被ばく線量の野外測定から学ぶ

■本書のねらい

本書は、IERが実施してきた原発事故後の研究についてまとめた環境放射能分野における学術書です。IERのこれまでの研究成果に基づいた内容を幅広く示しており、福島第一原発事故後の環境放射能動態に関する科学的知見の理解に資することが期待されます。

■本書の閲覧方法と入手方法

本書は、全国の国立大学附属図書館、福島県内の公立図書館や福島県内の高校・大学などの教育機関に寄贈しております。本書は非売品ですので、興味のある希望者には配布をいたします。詳しくは、お問い合わせ先にご連絡の上、ご確認ください。

~~~~~

福島大学  
環境放射能研究所



福島イノベーションコースト構想



災害・被ばく医療科学分野の  
人材育成による知の交流拠点構築事業

